



## 平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 福留ハム株式会社

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中島 修治

問合せ先責任者 (役職名) 経理支援部長

(氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6181

四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	13,517	△5.8	204	△35.1	239	△29.8	172	△15.1
28年3月期第2四半期	14,351	2.0	315	155.5	341	249.8	203	586.9

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 65百万円 (△84.5%) 28年3月期第2四半期 424百万円 (52.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	10.36	—
28年3月期第2四半期	12.20	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	17,182	5,871	34.2
28年3月期	16,561	5,856	35.4

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 5,871百万円 28年3月期 5,856百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,600	4.6	480	△21.0	500	△23.0	290	140.0	17.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期2Q	17,000,000 株	28年3月期	17,000,000 株
② 期末自己株式数	310,244 株	28年3月期	309,094 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	16,690,520 株	28年3月期2Q	16,692,107 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビューの手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策を背景に、企業収益の改善や雇用・所得環境の改善がみられるものの、引き続き個人消費が伸び悩み、円高や株式市場の低迷に加え、アジア経済新興国等の景気の下振れや金融資本・商品市場の動向の懸念もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、輸入原料価格は安定したものの、国内牛肉相場は高値が継続し、消費者の低価格志向や競合他社との価格競争も激化し、依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、創業100周年に向けて経営理念のさらなる浸透を図るとともに、コンプライアンスを重視した社員教育を実施いたしました。また、製造コスト等の上昇が当社の経営を強く圧迫する要因となっている状況のなか、作業効率の改善や仕入の見直しを重視し、コスト削減努力を継続して行ってまいりました。

販売に関しましては、「花ソーセージ」シリーズのテレビCM放映や福留ハムの今を伝える情報誌”ザ・プレミアムブック”を創刊し、販売促進に繋げ、コンビニエンスストア・ドラッグストアでの販売、そして「ロマンティック街道」シリーズに加え、マイスターこだわりの「広島港町ハム工房」シリーズや真空調理法の「ロースト」シリーズなどの高付加価値商品の販売強化を進めてまいりました。また、ギフトにおきましても「宮島」・「弥山(みせん)」ギフトや佐賀牛・熊本牛・広島もち豚の食肉ギフトも含めて充実を図ってまいりました。さらには、地元プロ野球球団である広島東洋カープとのタイアップ商品を発売し、応援セールや優勝セールを実施し、販売の拡大を図ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、135億17百万円(前年同四半期比5.8%減)となりました。利益につきましては、営業利益は2億4百万円(前年同四半期比35.1%減)、経常利益は2億39百万円(前年同四半期比29.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億72百万円(前年同四半期比15.1%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 加工食品事業

加工食品事業につきましては、全体的な消費不振のなか「花ソーセージ」、「ローストビーフ」、広島東洋カープとのタイアップ商品が堅調に推移しましたが、企業間競争の激化などにより売上高は減少しました。

その結果、売上高は61億13百万円(前年同四半期比7.3%減)、セグメント利益(営業利益)は4億14百万円(前年同四半期比7.9%減)となりました。

#### 食肉事業

食肉事業につきましては、国産牛肉において、相場の高騰による消費の縮小が進み、売上高、販売量とも大幅に減少しました。国産豚肉においては、国産牛肉の代替需要による競争激化で収益確保が厳しくなり、売上高、販売量とも減少しました。輸入ミートにおいては、国産牛肉の代替需要や現地価格の下落、円高傾向等により売上高、販売量とも増加しましたが、販売価格の高い国産牛肉の落ち込みをカバーするまでにはいたりませんでした。

その結果、売上高は74億3百万円(前年同四半期比4.6%減)、セグメント利益(営業利益)は86百万円(前年同四半期比30.4%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債、純資産等の状況

#### (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ6億20百万円増加の171億82百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ5億74百万円増加の80億42百万円となりました。主な要因は、現金及び預金5億74百万円の増加によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ45百万円増加の91億40百万円となりました。主な要因は、土地2億40百万円の増加及び投資有価証券1億67百万円の減少によるものであります。

#### (負債の部)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ6億4百万円増加の113億10百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2百万円増加の78億89百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金2億2百万円の増加と未払法人税等87百万円及びその他77百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ6億2百万円増加の34億21百万円となりました。主な要因は、長期借入金5億93百万円の増加によるものであります。

#### (純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ15百万円増加の58億71百万円となりました。主な要因は、利益剰余金1億22百万円の増加及びその他有価証券評価差額金1億19百万円の減少によるものであります。

### ②連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ6億24百万円増加の38億1百万円（前連結会計年度比19.7%増）となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、4億68百万円（前第2四半期連結累計期間は7億20百万円の資金獲得）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益2億39百万円及び減価償却費2億19百万円等によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、2億77百万円（前第2四半期連結累計期間は1億99百万円の資金使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出3億33百万円等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、4億34百万円（前第2四半期連結累計期間は3億15百万円の資金使用）となりました。主な要因は、長期借入れによる収入9億円と短期借入金の純減額2億円及び長期借入金の返済による支出1億55百万円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業務予想につきましては、平成28年5月13日に公表いたしました業績予想の変更はしておりません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額は軽微であります。

### (4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,347	3,921
受取手形及び売掛金	2,709	2,713
商品及び製品	930	979
仕掛品	43	51
原材料及び貯蔵品	316	276
繰延税金資産	82	82
その他	40	44
貸倒引当金	△1	△27
流動資産合計	7,467	8,042
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,924	1,867
機械装置及び運搬具(純額)	533	497
土地	3,344	3,584
リース資産(純額)	305	297
その他	32	31
有形固定資産合計	6,140	6,279
無形固定資産	101	90
投資その他の資産		
投資有価証券	2,282	2,115
繰延税金資産	365	446
その他	368	354
貸倒引当金	△164	△147
投資その他の資産合計	2,852	2,769
固定資産合計	9,094	9,140
資産合計	16,561	17,182

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,236	2,439
短期借入金	4,501	4,452
未払法人税等	210	122
賞与引当金	191	205
その他	747	669
流動負債合計	7,887	7,889
固定負債		
長期借入金	252	845
役員退職慰労引当金	301	283
退職給付に係る負債	2,023	2,054
その他	240	236
固定負債合計	2,818	3,421
負債合計	10,705	11,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	1,115	1,238
自己株式	△78	△78
株主資本合計	5,232	5,355
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	772	652
退職給付に係る調整累計額	△149	△136
その他の包括利益累計額合計	623	516
非支配株主持分	0	0
純資産合計	5,856	5,871
負債純資産合計	16,561	17,182



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	14,351	13,517
売上原価	11,620	10,896
売上総利益	2,731	2,620
販売費及び一般管理費	2,415	2,415
営業利益	315	204
営業外収益		
受取利息及び配当金	20	20
不動産賃貸料	27	28
その他	20	23
営業外収益合計	68	72
営業外費用		
支払利息	41	37
その他	1	0
営業外費用合計	42	38
経常利益	341	239
特別利益		
投資有価証券売却益	5	-
特別利益合計	5	-
特別損失		
有形固定資産除却損	0	0
環境対策引当金繰入額	23	-
特別損失合計	24	0
税金等調整前四半期純利益	322	239
法人税、住民税及び事業税	145	98
法人税等調整額	△26	△32
法人税等合計	118	66
四半期純利益	203	173
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	203	172

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	203	173
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	208	△119
退職給付に係る調整額	12	12
その他の包括利益合計	220	△107
四半期包括利益	424	65
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	424	65
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	322	239
減価償却費	231	219
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	10	△17
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△7	7
環境対策引当金の増減額(△は減少)	23	-
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	45	49
受取利息及び受取配当金	△20	△20
支払利息	41	37
投資有価証券売却益	△5	-
有形固定資産除却損	0	0
売上債権の増減額(△は増加)	△28	△4
たな卸資産の増減額(△は増加)	△0	△16
仕入債務の増減額(△は減少)	335	197
その他	△153	△16
小計	796	675
利息及び配当金の受取額	20	20
利息の支払額	△42	△36
法人税等の支払額	△54	△191
営業活動によるキャッシュ・フロー	720	468
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	-	50
有形固定資産の取得による支出	△215	△333
有形固定資産の売却による収入	-	2
投資有価証券の取得による支出	△6	△6
投資有価証券の売却による収入	15	-
無形固定資産の取得による支出	△0	△2
その他	7	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△199	△277
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	△200
長期借入れによる収入	-	900
長期借入金の返済による支出	△201	△155
配当金の支払額	△50	△50
リース債務の返済による支出	△63	△59
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△315	434
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	204	624
現金及び現金同等物の期首残高	2,695	3,177
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,900	3,801

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,593	7,758	14,351
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	6,593	7,758	14,351
セグメント利益	450	123	573

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	573
全社費用(注)	△258
四半期連結損益計算書の営業利益	315

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,113	7,403	13,517
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	6,113	7,403	13,517
セグメント利益	414	86	500

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	500
全社費用(注)	△296
四半期連結損益計算書の営業利益	204

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。